

月刊 ウィーン

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊31年目 Nr. 366

GEKKAN-WIEN 2020年4月号





杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 99

原子力委員会は、二月五日の定例会議で、来日中のラファエロ・マリアーノ・グロッシーIAEA（国際原子力機関、本部はウィーン）事務局長を招き意見交換を行った。会議には、日本の原子力関連機関を代表し、日本原子力研究開発機構の児玉敏雄理事長、量子科学技術開発研究機構の平野俊夫理事長、原産協会の高橋明男理事長も同席し、各々の活動について紹介した。



<https://www.jaif.or.jp/200225-1>

冒頭、竹本直一内閣府科学技術政策担当大臣が挨拶に立ち、福島第一原子力発電所の廃炉に関するレビューミッション派遣など、IAEAによる日本への広範な支援に対し感謝の意を表明。また、今回、グロッシー事務局長来日の機に設けられた意見交換の場を「歓迎すべきこと」と強調するとともに、引き続きIAEAとの緊密な協力のもと、原子力の平和的利用促進や核不拡散体制の強化に取り組んでいく考えを示した。

原子力から撤退し始めている国もあるとされた上で、「どのような国も除外せず共に歩んでいく」とIAEAとして支援を惜しまぬ考えを強調。この他、途上国の医療支援や食糧・水資源確保などにつながる放射線・放射性同位元素利用開発の重要性を述べ、一方、国際機関であるが故の予算面の制約にも触れ、「民間からも様々な形で協力してもらえれば」と今後の日本によるさらなる支援に期待を寄せた。

これに対し、佐野利男委員は、原子力分野における女性の活躍、ジェンダーバランスに関するIAEAの取組について質問。事務局長は、近くキュリー夫人の功績に因んだ新たなフェロシップを立ち上げ、女性研究者の経済的支援を図る考えを明らかにした。また、中西友子委員が放射線利用を啓発するための戦略について尋ねると、事務局長は、「一般の人たちも含め、より多くのコミュニケーション・チャンネルを持たねばならない」と応えた。

余談であるが、筆者は駐在時にそうとは知らずたまたまドロテウムに入ったことがある。美術品は元々好きであり、骨董品等も含めて独特の雰囲気味わった。つい最近知った千總は訪れたことがないが、次の上落の折には是非寄ってみたい。今月も両市の歴史的な長寿企業にまつわる話を紹介できた幸運に感謝しつつ、編集部撮影をお願いしたドロテウムの写真を掲載させていただきます。

八五年にアルゼンチン外務省に入省後、外交・国際機関の職務を歴任してきた事務局長は、「三五年間で何度も日本を訪れた」としている。昨年二月の事務局長就任後、初の来日に際し、昨年七月に逝去した前任の天野之弥事務局長の功績に「十年間にもわたりリードしてきた」と敬意を表す。日本の原子力に関しては、福島第一原子力発電所の廃炉など、「独自の課題も抱えている」としながら、発電以外にも医学利用を始めとする幅広い原子力科学技術分野で「リーダーシップを発揮できる」と期待感を示した。さらに、気候変動問題の解決に資する原子力発電の役割を改めて述べ、中国・インドの他、中東・アフリカ地域など、原子力導入を進めている国、一方

で原子力から撤退し始めている国もあるとされた上で、「どのような国も除外せず共に歩んでいく」とIAEAとして支援を惜しまぬ考えを強調。この他、途上国の医療支援や食糧・水資源確保などにつながる放射線・放射性同位元素利用開発の重要性を述べ、一方、国際機関であるが故の予算面の制約にも触れ、「民間からも様々な形で協力してもらえれば」と今後の日本によるさらなる支援に期待を寄せた。

コーヒーを楽しむことができる。一方、京都市中京区三条馬丸にある「千總（ちそう）」は、一五五五年（弘治元年）に法衣装束商として創業した友禪染老舗。宮大工であった遠祖が春日大社に威儀物の千切台を納めていた故事から商標は千切台、家紋は橘、屋号を千切屋とした。江戸時代には東本願寺をはじめ、門跡家、宮家へ装束を調達。明治時代には下絵を日本画家に依頼して斬新なデザインで友禪染の新时代を築く。国内外の博覧会で数々の賞を受賞し、美術染織品分野のパイオニアとなる。大正から昭和にかけて、中国、欧州、東南アジア、中近東に貿易を拡大。平成には、芸術家や海外ファッショングラウンドとのコラボに積極的に取り組む一方、伝統産業の振興や文化財の保存・活用を目指す。両市の美術系老舗は、美で社会に貢献しているのが共通している。



杉本純 元京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長

杉本純の原子力の話II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています：<http://wattandedison.com/Sugimoto.html>



ウィーン旧市街グラーベンの歩行者ゾーンを巡回するパトカー

新型コロナウイルス感染状況

- 4月1日 08:00 ウィーン市発表
ウィーン感染確認 1456人
死者 29人 回復 67人
- 4月1日 08:00 保健省発表
オーストリア感染確認 1万 192人
ウィーン 1418人
- 4月1日 10:00 保健省発表
オーストリア死者 146人
入院 1071人 (ウィーン 195人)
集中治療 215人 (ウィーン 30人)
- 保健省ダッシュボード 1日 12:00
オーストリア感染確認 1万 387人
男性 51% 女性 49%
ウィーン感染確認 1461人
ウィーン住民 10万人当り 77人



河野純一 著

河本和郎 著

河野純一 著

河野純一 著